天保三年
三原新書
全部十冊
繪師 貞
へ13
3890
4
へ13
3890
3
へ13
3890
2
へ13
3890
1

へ13
3890
1

# 振袖みつ記

黒春亭梅麿 編
貞齋 画
紅英堂櫻寿 校

雪麿 正

全部八号合本四冊

門へ14
號 3890
巻 1



白石新の七ツ目は桟敷と受さすの所の爺様淡洲樓が筆力ふるて。曾我物語の教訓ハ古今未発の趣向なるべし。振袖日記の合巻ハ看官ハ悦ハ中橋の貴兄墨春亭が新茶にして娘曾我と題せしも。青蓮の朝ハ未時候ハ尤相應せりと書賈が鼻春蝶しく喜悦

紅葉の大分ハ量見違ふ。彼人吾拙作の体をハ称びく聲名を信せ下博馬街相傳の墨の一字を戯号ハ名吾ヨ迄未聞悪き初杜鵑

自新の老道の師匠自ら五ツ文字記る文辞のてにを廻らぬ筆の嵩高ハ

著述ハ鳥字ハ一と一番凹まくハ法のりで出ル紙是非をも云せぬ夫

堂が世法言の無理所望の早咲梅広呂が勝色見せる初舞ハ。

そのゝ元板合巻ハ

天保三壬辰肇春新版

墨川亭雪麿序

さらら川の伯父君
雲竜軒
東海道奥の牧の原
拾玉集
慈鎮和尚
○奥州岩手の家臣
茅加馬雷七郎
後に秋夜齋
桃の園前
御墓
さらら川の
○武者修行
宇治大部の助
なつくるこのハ
春乃若竹

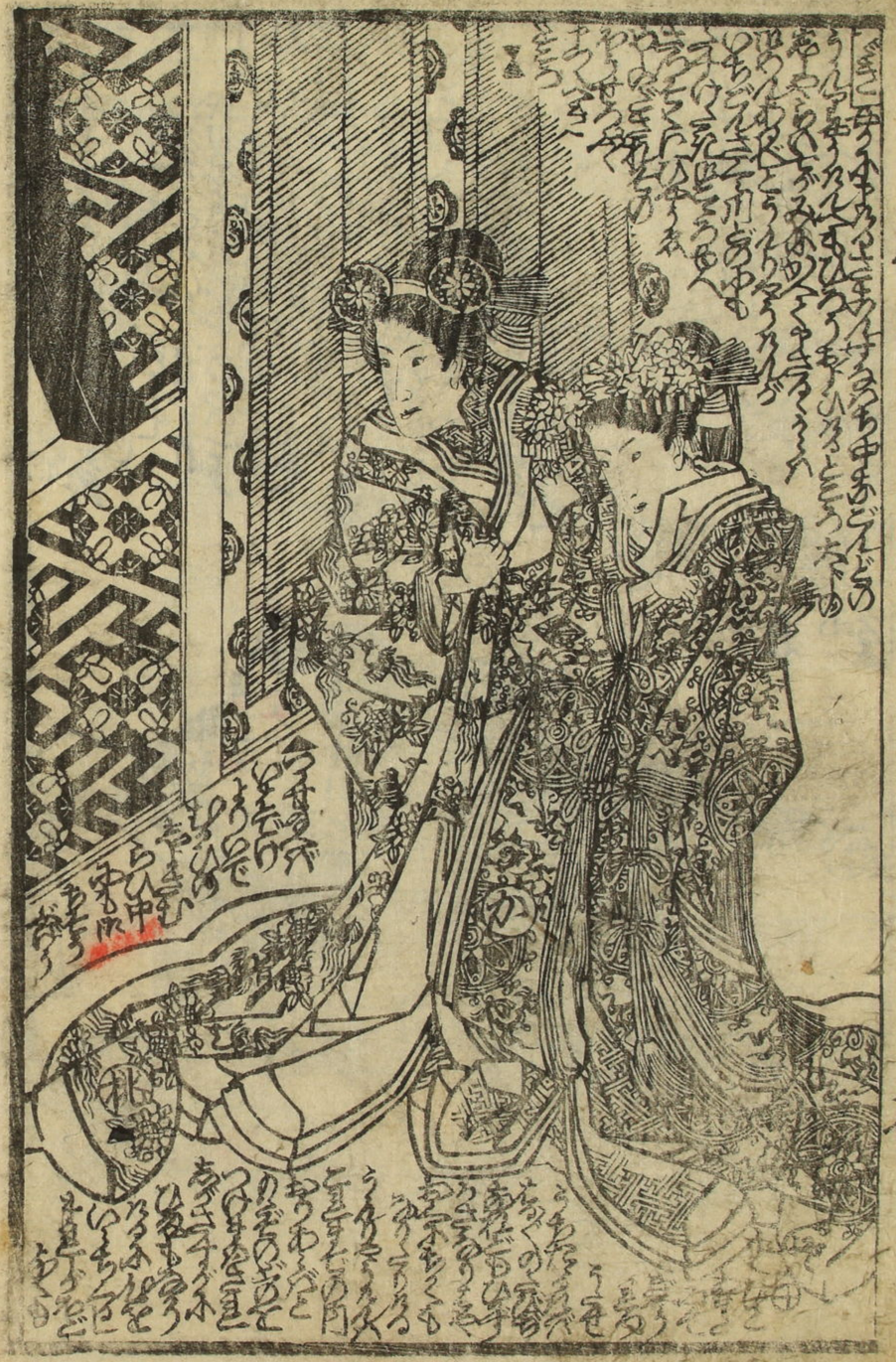
千載集
頼政
ちんぐんいてきのぶせとり衣
ねのうちふ
みぐるき
ゆるひ
武限
膳頼
同妹娘
信夫
○岩手家の忠臣
離島之亟
さゝ川息女
かるの姫
○安積沼右エ門ゞ姉娘
小萩

古今集
人丸
みちちかく
なりぬるかの
ちかの
ゑそのべ
左門
妻
安積
沼
緒田江
義士
安達与茂平
下部
苦痛二
岩千
大の領
友方
公
龍蝶
流行
大道具
怪談
三遊亭
小勝
十日の日
十日の人
同文房
千束

よみもしてめ
雷

ちぎりのうちてびゃうう
桃

口上
仙女香
美玉香
下ノ平八号
世の中の手あらいわしと
ものとしてあらい手の
極上三月用
松本氏製



雷
沼


島

貞齋画 梅广呂作

筆者 金水

此本行方へ参り申候
此後ハ東ハ私方へ御参
いの
何ッも

へ13
3890
2

門 へ13
3890
2

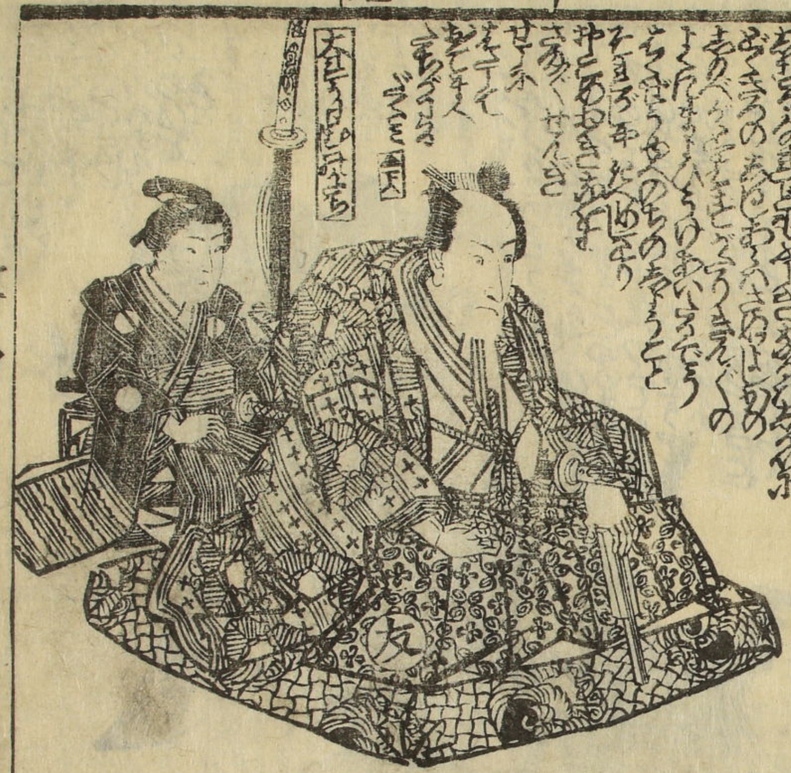
# 梅すぢ娘貞操

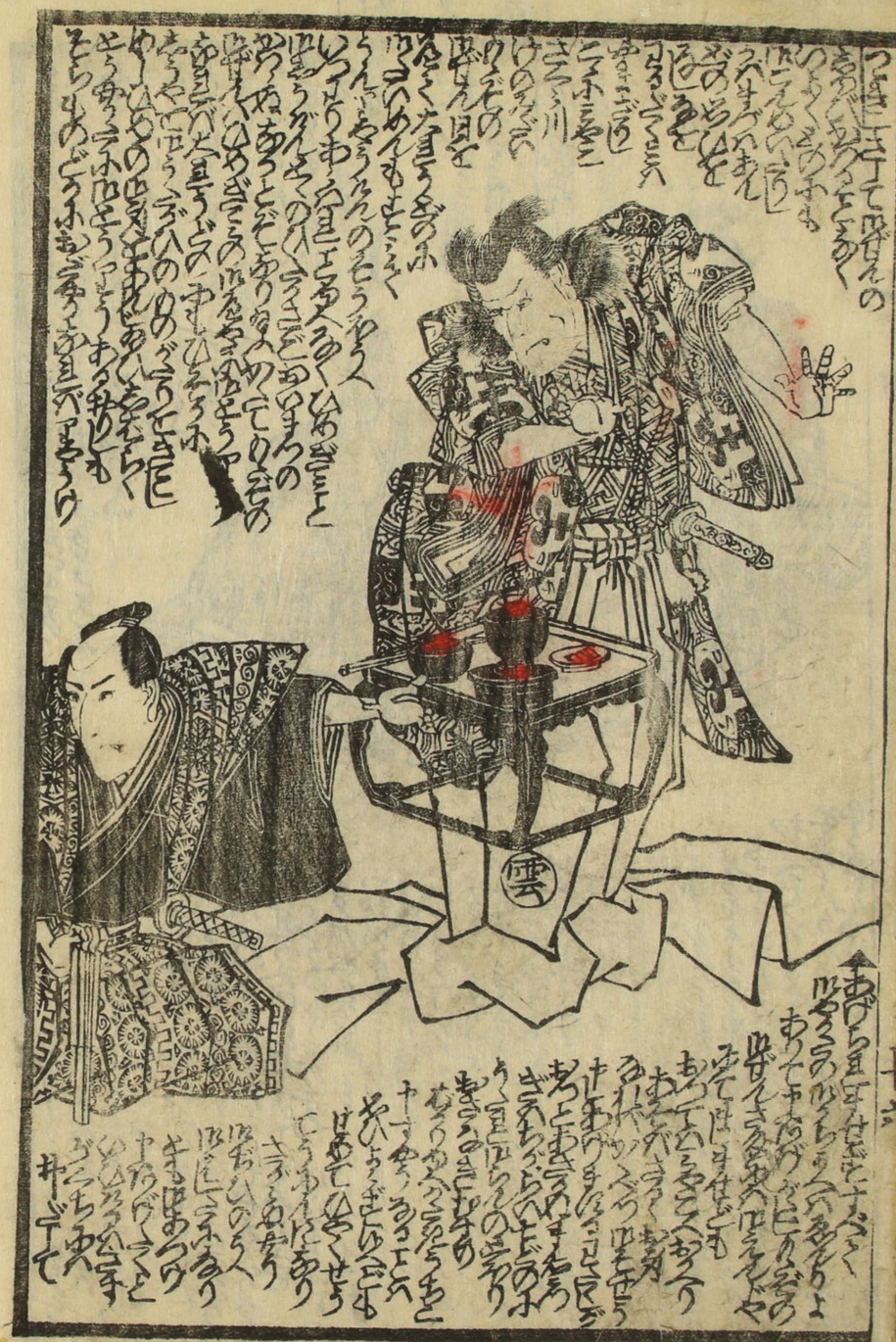
貞齋画

つる英堂とり梓

沼

番




雲

友
島

桃
か
鳥

田
小

## 天保二壬辰年春新版目録

全四冊　柳亭種彦作　溪齋英泉画
略海人手管の糸珠

全六冊　墨春亭梅広作　歌川国貞画
弘法流　忠臣藏稚伊呂波
平仮字

全四冊　墨川亭雪麿作　歌川貞画
於ちよ　時話今櫻野駒
半紙本　小説

全六冊　松亭金水作　貞齋画
宮城野の小萩　娘曽我振袖日記
信夫摺の色紙

雪麿　墨春亭梅広作　貞齋画
校合　全八冊
美艷仙女香
黒油美女香

江戸京橋三丁目角　坂本氏
京橋南傳馬町二丁目　地本錦繪問屋　紅英堂鶴屋吉藏

へ13
3890
3

へ13
敵3890
巻3

姉妹の志通女
女猿楽より
打扮く
図
わらく

五之巻

なの女筆

丈
秋

秋


丈

貞流所画

梅广呂作

清浄精製 白妙

一包 代三十二銅

本家銅合所 江戸中橋廣小路町 北林堂画 宮弥

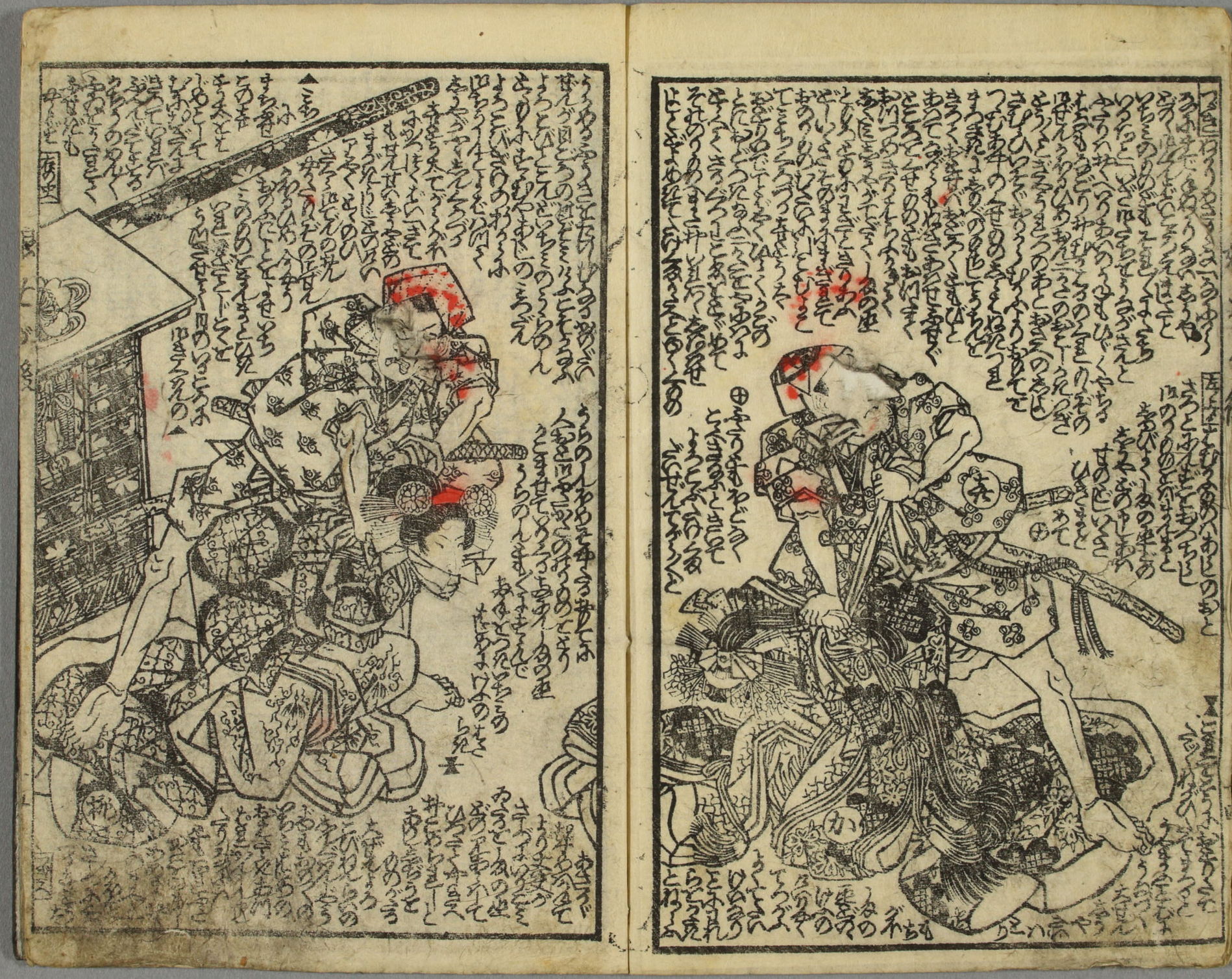
天保三年
壬辰新彫
全部五冊
繪師 貞壽
おたき
くるべート
けんのう
へ13
3890
4

阿へ13
8896
巻 4

# 繪教訓 至家

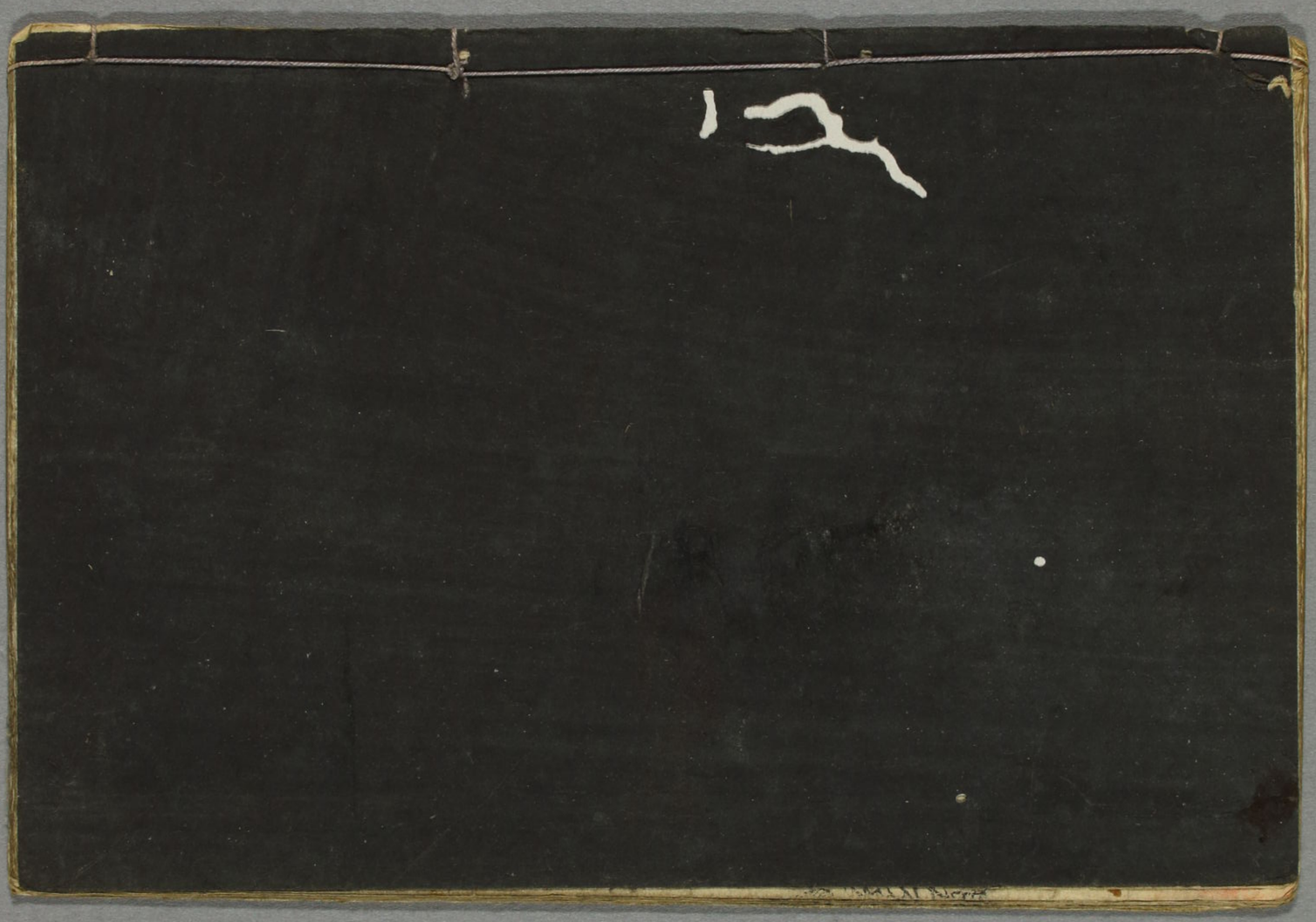
下巻

秋
島
小



墨春亭梅彦作

筆者 金水

野工 彫

自賛三人画